

常盤の翠

志・実・錬

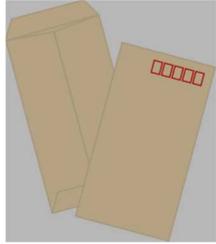
発行

平成31年3月12日
鹿児島市立伊敷中学校

「天からの封書を開けよ」

「天からの封書を開けよ」という言葉があります。「人は誰でも天から封書を預かって生まれてくる。封書を開けると、そこにはその人の使命が書かれている。しかし、その封書を開けずに人生を終えてしまう人のなんと多いことよ。」と言ったのは、森信三という教育学者です。人は生まれるときに、それぞれが自分の使命を持って生まれてきており、死ぬまでに果たすべき役割が与えられている。それを『封書をもって生まれてくる。』と表現しているのだと思います。

同じようなことを、坂本龍馬も言っています。「人がこの世に生を得るは、ことを成すにあり。」これは、「人間は誰しも、この世で何かを成し遂げるために生まれてくるのだ。」ということです。そして、続けてこう言うのです。「何の志も無きところに、ぐずぐずして日を送るは、実に大馬鹿者なり。」と・・・。自分は何のために生まれたのか、どんな人生を生きなければならないのか、あらためて考えさせられますね。でも、どうすれば自分に与えられた封書を開けて、自分が果たすべき使命に気付くことができるのでしょうか。



吉田松陰は、『目の前のことに全力を尽くす』それ以外に自分の使命に気付く方法はない』と言っています。つまり、天からの封書を開けて、自分の使命を理解するには、今やるべきことを精一杯するしか方法は無いというのです。最近では「自分探し」という言葉がもてはやさ

校長 寺園 伸二

れていますが、どこかに青い鳥がいるのではないかとさまようより、毎日を精一杯過ごすことが大切だと言っているのです。中学校生活では、勉強でも、部活でも、委員会活動でも、やるべきことがたくさんあります。何でもこんなことをしなければいけないのかと、時には愚痴を言いたくなることもあるでしょう。でも、今やるべきことに誠実に向き合っ努力するからこそ、本物の自分を見付け出すことができるのかもしれない。

天からの封書を開けて、自分の使命を理解することは、本物の自分の生き方に気付くということ。人はいつも誰かに影響されて生きていますが、他人と同じ人生を歩むことはできません。与えられた使命は何かを常に考え、自分の使命に出会いたいと強く願う続けること、自分の人生には意味があると心から信じ、世のため人のために自分が成すべきことを考え続けること、それが、充実した人生を送るために必要なことだと思います。

伊敷中の皆さん。人はこの世に生を受けた理由が必ずあります。あなたが生まれたとき、家族はどんなに喜んでいただけでしょう。そういう意味では、あなたは生きていくだけで十分役割を果たしている。でも、あなたには他にも、大切な使命があるかもしれない。あなたには、あなただけに与えられた役割、使命が必ずあるはず。自分にはどんな役割があるか、考えましょう。私も考え続けています。

4月の主な行事予定

- 8日 新任式・始業式
第73回入学式
- 9日 標準学力検査(～10日)
- 11日 1年身体計測 避難訓練
- 12日 交通安全教室 2・3年身体計測
- 13日 授業参観・PTA
- 15日 部活動紹介式
- 16日 学習適応授業
- 18日 全国学力学習状況調査(3年)
- 19日 一日遠足
- 23日 部活動発表会
- 25日 グリーンタイム
- 26日 授業参観・PTA総会

5月31日(金)

伊敷中第68回研究公開(終日)

旅立ちのとき

卒業式を前に

まだ少し寒さの残る朝ですが、校舎内外のあちらこちらで「巣立ち運動」に取り組む三年生の姿が見られます。これは、学校に感謝の気持ちを込めて、奉仕作業を行うというものです。受験をひとまず終えた安堵感もあり、笑顔で作業を行うその姿からは、仲間とこれまで成長してきたという自信や伊敷中を大切にしたいという気持ちが伝わってきます。

明日の卒業式は伊敷中での最後の授業になります。人生の節目としての厳かな雰囲気の中で、皆さん一人一人にとって、伊敷中で過ごした時間はどんな意味があったのか、十分に振り返ってほしいと思います。それはきっと、赤学年221名を中心に様々な出会いがあったことへの感謝につながり、次のステージの出会いへの期待を高めることになるでしょう。

一・二年生の皆さんにとっては、寂しさや不安もあることでしょう。しかし、バトンは渡されました。三年生が築いてくれた伝統を引き継ぐだけでなく、新たに発展させていくことが先輩達への恩返しになります。三年生が最後に見せるその背中に、次の自分を重ねてみましょう。



充実の二年



挑戦の一年



飛躍の三年 ~ 進め 君らしく 心躍るほう ~



未来を見据えて 職場体験学習

2月20日から三日間、二年生は職場体験学習を行いました。「働く」という言葉には「はた(周囲)」を「らくにする」という意味があるそうです。社会に出てみて、単にお金を稼ぐにとどまらない、世のため人のために汗を流す大人の姿をたくさん見ることができたのではないのでしょうか。

お世話になった方々に感謝をし、改めて自分の将来について深く考えるきっかけにしてほしいと思います。そして、日頃の学校生活の意味を、それぞれが見つめ直しましょう。

「働くこと」を考える上で、一番身近にある教材は、保護者の方々だと考えます。御家庭でも話題にしていたけると幸いです。

栄光の記録

○第50回鹿児島市春季ソフトテニス大会

1年の部 優勝

1年1組 油田 悠貴 健
清水 琉星
津留 暖生
新田 翔太
蔦元 莉玖
三宅 阜樹
松山 雄心
井上

○第5回九州中学校選抜テニス大会

第3位

1年2組 堀切 望夢
2年2組 池田 湊
2年4組 平山 凛太郎
内村 翔大
荒木 陽稀
川上 慶楨